

Agent Orchestration

AIを、ツールから業務基盤へ



日本発のiPaaS「HULFT Square」の プランの一部として提供します

生成AIを実務に使う企業の70% (※) が、すでにAIエージェントの活用に進んでいます。AIが業務を動かしはじめると、「誰が・何を・いくらで使っているのか」が見えにくくなります。Agent Orchestrationは、HULFT Squareのデータ連携基盤の上で社内データと業務プロセスをつなぎ、生成AI・AIエージェントを企業の運用に乗せる「AI業務実行基盤」です。日本発のiPaaS「HULFT Square」のプランの一部として提供します。

※出典: ITR「生成AIとLLMに関する動向調査」(2025年2月調査)、国内企業における生成AIおよびAIエージェントの利用状況

誰か一人がAIを上手に使えるようになることと、組織としてAIを業務に載せられることは別の問題です

生成AIを試すところまでは、多くの企業がすでに到達しています。つまりくのはその先、一部の試用を全社の仕事へ広げようとしたときです。しかもぶつかる壁は立場によって異なります。



こんな課題を抱えていませんか

AIを管理する人・つくる人・使う人は、それぞれ次のような場面に行き当たります

ISSUE 01

高額課金や情報漏えい リスクに気づけない

誰がどのAIをどう使っているか把握できず、想定外の課金や情報漏えいリスクへの対応が遅れます。

ISSUE 02

データ連携の負荷で、 実装が進まない

社内データとの連携に実装負荷がかかり、一部の試用から実務への組み込みが頓挫してしまいます。

ISSUE 03

活用が個人止まりで、 組織に広がらない

AIの使い方が個人の工夫にとどまり、リテラシーの差が生産性向上の壁になっています。

個人最適の積み上げではなく「組織最適」の視点から3つの課題にまとめて応えます ▶



Agent Orchestrationで課題を解決

SOLUTION 01

誰が何をしているか、丸ごと管理できる

全体管理者が、モデル・コスト・プロセスをまとめて統制します。データの保管場所が増えない＝守るべき場所が増えないため、情報漏えいのリスクを抑えられます。



全体管理者は、モデル・コスト・プロセスの

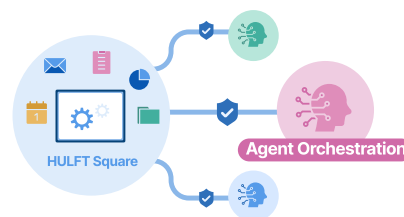
3つを見ることで、AIの使われ方を把握できます

- ✓ **モデル** 割り当て可能なモデルを設定、割り当て状況を可視化
- ✓ **コスト** エージェント単位で利用コストを継続監視
- ✓ **プロセス** 設定内容と問い合わせ傾向を横断的に把握

SOLUTION 02

コードを書かずに、データがつながる

高精度なRAG（Retrieval-Augmented Generation）を短時間で作成でき、HULFT Square連携で継続的なデータパイプラインも組めます。レガシーシステムもHULFT経由でそのまま取り込めます。



HULFT Squareを基盤にしているからこそ

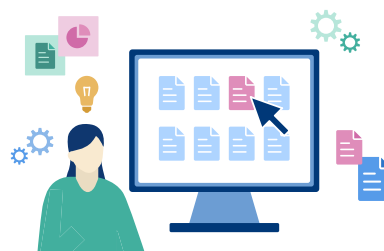
次の3つが実現します

- ✓ **コネクタ** 多様なデータソースへのマルチコネクタ対応
- ✓ **データ鮮度** 一次データへ直接アクセスするから、鮮度を保ったデータ連携を実現
- ✓ **影響範囲** 業務システム側の変更が不要

SOLUTION 03

一度の成功が、みんなの資産になる

利用者はポータルから選ぶだけ。一画面で複数のモデルを比較でき、うまくいった回答プロセスはエージェントとして資産に残ります。作った人以外も、同じやり方を使えます。



選ばれる理由

POINT 01



ガバナンスとコストを最適化

契約中の生成AIモデルを登録し、エージェントごとに用途・コスト・セキュリティで使い分けます。統制と可視化の両輪で運用を続けられます（モデルプロバイダー機能）。

❗ 今、生成AIは「個人の道具」から「業務を動かすエージェント」へ

生成AIを安全に業務に活用するためには、内容・行動・財務の3つの責任に、事前の「統制」と事後の「可視化」の機能を備える必要があります。

	統制	可視化
✓ 内容の責任	IDP連動のアクセス制御／ふるまい設定	思考プロセスの提示
✓ 行動の責任	HITL承認（影響範囲・外部送信の条件で発動）	監査ログ／お客様環境への転送
✓ 財務の責任	BYO Modelで全社集約／利用モデルの選択	統計情報（モデル別トークン・実行回数）

※ IDP：Identity Provider（アイデンティティプロバイダー）／HITL：Human in the Loop／BYO Model：Bring Your Own Model

POINT 02



社内データを安全にAI活用

HULFT Square経由で原本に直接アクセスします。コピーが増えないので、情報漏えいのリスクも抑えられ、社内データを安全に活用できます（アクション機能）。

POINT 03



部門ごとのAI活用を一元管理

部門・ユースケースごとにAIエージェントを作成します。成功した回答プロセスは、選択するだけで作成者以外でも使えます（AIエージェント機能）。

連携できる範囲

機能 3種

- AIエージェント機能
- アクション機能
- モデルプロバイダー機能

全体管理者ができること

- 設定内容の一元把握
- 利用トレンドの可視化

対応範囲 3種

モデル

Amazon Bedrock

アクション

- Web検索
- DB検索（MySQL）
- REST API

HULFT Squareの接続先（コネクタ契約に依存）

※対応範囲は2026年8月時点のものです。今後の対応予定は変更される場合があります。

全社にどう広げるか — 管理者・作成者・利用者の役割

全体管理者

全社のAI環境を ガバナンス

モデル・接続・権限を一元管理し、利用状況とコストを監査します。

エージェント管理者

業務専用 エージェントを作成

エージェントに業務アクションを紐付け、部署専用AIとして公開します。

ユーザー

チャットUIで 業務に活用

自部署のエージェントで情報を即時検索。自然言語で業務処理を依頼できます。

活用イメージ

部門によって知りたいことは違います。ふだんの言葉のままで構いません。
AIエージェントが必要なデータを選び、人の承認を挟みながら回答します。

過去5年の故障率と
在庫数は？

生産管理



顧客Aの契約条件と
トラブル履歴を出して

カスタマー
サポート



休眠顧客を
確度順に

営業



予算消化率の異常値を
分析して

経営企画



価格の目安

Agent Orchestrationは単体では提供されず、HULFT Squareのプランの一部として使えます。HULFT Squareをこれから導入するならAI-Startパックが、すでにお使いならアドオンが、それぞれの入口になります。

※ 価格は税抜です。

※ 別途お客様にてご契約頂くクラウドサービス利用料（AIモデル、ナレッジベース、ストレージ等）が発生します。

※ 利用量（総トークン数）の増加に伴い、AIモデル側の従量課金変動します。

AI-Startパック

月額 **68万円**～

Agent Orchestration
標準装備

Standard/Enterprise

+ 月額 **20万円**

アドオンとして追加
(プラン料金に加算)

こんなときに...

- 生成AIに社内データを安全に使わせたい
- 部門ごとのAI活用を統制したい
- AIのコストと利用状況を見えるようにしたい



提供時期・価格をご案内
お問い合わせ・お見積り



要件が固まる前でも歓迎
無料オンライン相談

※HULFT、HULFT Square、DataSpider Servista その他関連製品は、株式会社セゾンテクノロジーの登録商標または商標です。

※その他の会社名、製品名、サービス名等は、各社の登録商標または商標です。